

H3 | 年度学校研究について

1. 研究主題及び副題

『自ら考え、表現する子の育成』

～学び合いを通して～

「学び合い」…一人一人が考えをもち、話し合うことで学習内容が広がったり深まったりすること。また、教え合うこと。学習を振り返ることで学んだことを意識し、その内容や手段を次に生かそうとすること。全員が話せるよう、ペアやグループなどの小集団とする。

2. 主題設定の理由

昨年度は、研究主題を『自ら考え、表現する子の育成』、副題を『学び合いを通して』とした。主体的に課題に取り組み、他者との対話的な学びにおいて、自分の思いを表現することで、一人一人が達成感をもち、それらが『自ら考え、表現する子の育成』へとつながるよう研究を進めてきた。

その結果、課題提示の際に単元のゴールを明確に示したり、既習を生かした課題を設定したりすることで、児童が見通しをもったり、意欲的に課題解決に取り組んだりするようになってきた。また、自分の考えをもち、進んで発表するようになってきた。

一方、「自分の考えを分かりやすく話す力が弱い」「友達や教師の話の内容を理解できない」などの課題が浮かび上がってきた。ペアやグループでの話し合いで自分の意見を言うことはできるものの、それらについて話し合い、考えを深めるまでは至らなかった。また、そのために必要となる、一人一人の「聞く力」「話す力」「語彙力」や、学級全体に必要な「主体的に話し合う力」がやや弱いことも見えてきた。

本校の教育目標は「自ら進んで学び、他と関わりながら心豊かにたくましく生きる子の育成」である。そのためには、自分の考えをもち、分かりやすく伝え、友達と協力しながら高め合う力が必要である。このような力を育成するためには、児童が主体的に学習したくなるような授業づくりをし、その中で相手意識をもたせ、分かりやすい話し方ができるようにすることが大切である。

以上から、本年度も引き続き、研究主題を『自ら考え、表現する子の育成』、副題を「学び合いを通して」として研究を進めていくこととした。授業者が、めざす「学び合い」の姿を明確にし、そのためにどのような手立てが有効なのか明らかにしていくことで、全ての子を「自ら考え、表現する子」に近づけていきたい。

3. 研究の内容

本校のめざす学びの姿は、

「自ら考え、表現する子」である。

「自ら考え」とは、話題になっていることを正しく理解し、それに対して自分の考えをもつこと。

「表現する」とは、自分の言葉で相手に分かりやすい文で伝えるということ。

重点① 子どもが考えたくなる単元構成・課題設定の工夫

興味関心をひく学習材を提示したり、既習を生かした導入をしたりすることで、子どもの問題意識を高め、主体的に考えさせられる。

- ・ 子どもが自分の考えをもって友達と学び合うようになるには、子ども自身が課題意識をもち、考えたくなるような学習課題を設定がする必要がある。例えば、子どもが「なぜ？ どうして？ はっきりさせたい！ できるようになりたい！」という思いをもつような学習材と出会让せる。単元で付けたい力を明確にして、生活経験や既習と関連付けながら課題意識を持つように、単元構想を考えたり、導入を考えたりする。また、学習課題や学習計画を子どもに考えさせる。以上のようにして主体的な学びにつながるようにしていきたい。

重点② 子どもが「わかった」「できた」と実感できる対話的な活動の工夫

教師の意図的なグルーピングやそれにより、学びを振り返る場を設定し、人や学習材との対話的な活動を取り入れる。それにより、はっきりしなかった自分の考えや分からなかったことが明確になったり、より確実なものになったりすることで達成感をもてる。

ア. 人との対話（学び合い）

全体で取り組みたいこと

授業の中でペアやグループで話し合う時間を作る。

ペアやグループで話し合う時間は子どもに進行させる。

- ※ 低学年は、自分の考えをもち、学級全体やペアに分かりやすく伝える。
- ※ 学期の始まりでは、わかりやすく話すこと、聞くこと、自分の考えをもつことを重点的に指導する。ペアやグループでの話し合いの進め方を教えたり、うまくできたことをほめたりする。

イ. 学習材との対話

- ・ 効果的な学習材の提示の仕方を工夫し、子どもが資料や具体物などと対話し、学習内容を深められるようにする。
- ・ 自分の学びを振り返る。

現在・過去・未来の視点で学んだこと、学んだ手段について振り返る

現在（今日の授業で〇〇さんの説明で分かりました など）

過去（前に習った〇〇を使うとできました など）

未来（今日習った〇〇を今度の学習に生かしていきたいです など）

※ 4・5月は、中高学年は分かったことや感想が書けるように。

低学年は一年を通して分かったことや感想が書けるように。

特別支援学級について

- ・ 重点①、重点②イ. 学習材との対話 を主に研究する。
- ・ 複数名の学級は、場合によって重点②ア. 人との対話（学び合い）も考えることとする。

4. 研究の進め方

(1) 研究授業

①全体授業

- ・ 教科は、国語、算数、生活科、社会、理科、道徳から選ぶ。
- ・ 全体研の事前研は、学習指導部と低中高ブロックで行う。授業整理会は、全体で行う。
- ・ 全体研の運営は、学習指導部で行う。
- ・ 低中高ブロックから一人ずつ行う。
- ・ 外部講師を招聘する。

②低中高ブロック 研究授業

- ・ 教科は、国語、算数、生活科、社会、理科、道徳から選ぶ。
- ・ 1人1回以上、研究授業を行う。
(各ブロックから、1人全体研、それ以外は、ブロック研)
- ・ 指導案は、前日の朝までに配付する。
- ・ 希望があれば講師を招聘する。
- ・ 事前研や整理会、研究授業の役割分担は低中高ブロックごとで行うが、だれでも整理会に参加できる。
- ・ 事前研では、子どものどのような学び合いの姿を目指すのか。授業のどこで何を目的にペアやグループ活動を入れるのか話し合う。(重点②を中心に)
- ・ 授業者は、授業後、研究通信を発行し、授業の様子や整理会での協議内容を報告し、共通理解を図る。(授業後、1週間以内) → 「最終的には紀要原稿になる」
紀要…根拠 (TC, ノート, ワークシートなど) を基にして書く。
研究授業も訪問の授業もデータとして保存するので、板書の写真を撮っておく。
- ・ 教科別ブロック研を設置する。
教科ごとに分かれて学校訪問の授業研究(1学期)や日々の授業研究(2, 3学期)をする。(実践シート(学び合い))

5. 共通実践

(1) 学習を支える基盤づくり

①井上っ子スタディールールの定着

- ①学習の準備をする。
- ②気持ちをそろえてあいさつをする。
- ③息をすって、はっきり話す。
- ④さいごまで聴く。

②話し方、聴き方等の表現力の育成

- ・ 話型表を、授業を持つ先生に配布する。(大きく提示して子どもに意識させて授業したり、子どもが話したよい話型を全体に広めたりする。)

- ③朝自習の充実……基礎・基本的な学力の定着を図るため、朝自習を実施する。
学年で内容を統一する。

学習メニュー

- 月曜 読書（本のジャンルが偏らないようにする）
火曜 月2回は図書ボランティアの読み聞かせ
それ以外の日
・4・5・6年 活用力問題（国語）スマートスクールより
・1・2・3年 コグトレ
水曜 言葉（ひらがな、漢字、ローマ字、アルファベット等）
木曜 算数（基礎基本の定着を図るもの）
金曜 井上っ子作文（月1回）
それ以外の日 ・1・2・3年 視写
・4・5・6年 コグトレ

- ④ 家庭学習の充実……適切な時間（学年×10分）、家庭学習の習慣化を図る。

【家庭学習の手引き】参照

（内容）音読 + 国・算 + 自学

※ 家庭学習のすすめを参考にする。

※ 家庭学習の習慣化を図ることがねらいであるため、児童の負担にならないように。学年で統一する。

- ⑤ ぐんぐんタイム…基礎・基本となる学力の定着を図るための補充学習を行う。

※ 木曜日の放課後、全クラスで実施する。そうじがない分の放課後15分で行う。

※ できるだけ授業中に定着させるように。

- ⑥ 相互参観……児童が一つ上の学年の授業を参観し、学びのモデルとする。

- ⑦ 算数寺子屋プリント…算数の学力の定着を図るためのプリントを職員室前の廊下に常備する。